

農 林 水 産 大 臣 賞

受 賞 者 特定非営利活動法人アグリやさと
(茨 城 県 石 岡 市)

【 有機農業で持続可能な交流・定住を ！ 】

【 主なむらづくりの内容 】（平成20年9月に法人設立）

- 法人設立前から、JA と産直を展開している都市部の生活協同組合員親子を対象に農業体験を実施しており、法人設立後も無農薬による稲づくり体験は、田植え、草取り、稲刈り等年8回受入れし、有機農業による稲作りの体験に約600名（令和5年度）参加するなど消費者の農業理解を図っている。
- 都市部の中学校から、田植えや稲刈り、間伐、ジャガイモや人参、玉ねぎの収穫などの農林業体験に約2,200名（令和5年度）を受入れるなど食育活動を展開している。
- 朝日里山ファーム（研修農場）の管理運営により、有機農業への新規参加者を1年に1家族受入れ、2年間の研修を経て地域内で独立するしくみを確立し、イチゴコースも含めて、これまで7家族が就農。
また、就農相談会に定期的に参加し研修希望者と積極的な交流、相談の対応、研修生の独立時の空き家調査などの実施により、都市部からの移住者を増やすとともに、遊休農地の有効利用に貢献している。
- 朝日里山学校（旧朝日小学校）の管理運営を担い、そばやピザ・味噌作り教室などの食体験、竹細工や陶芸などの工芸体験、バーベキューなどの食事の提供を行うなど、年間約1万人以上の来訪者を受け入れ、廃校の有効活用で、地元へ元気を与えている。
米作り体験に参加した子どもから、「農家の人達の大変さが分かる貴重な体験だった」、「お米がくるのが楽しみ」といった感想が寄せられている。



アグリやさとスタッフ



田植え体験



有機農業の新規就農者



ピザづくり体験

農 林 水 産 大 臣 賞

受 賞 者 大田原とうがらしの郷づくり推進協議会
(栃 木 県 大 田 原 市)

【 Hot city 生産量日本一とうがらしの郷大田原 】

【 主なむらづくりの内容 】 (平成18年10月に推進協議会設立)

- 「とうがらしの郷大田原」を復活させるため、唐辛子を核に町おこし事業を始めるに当たり、市内の酒造会社、飲食店、小売業者、ホテル、菓子業者、生産者等の多様な業種の30人が会員として協議会を発足し、唐辛子を使った商品開発（ラーメン、どら焼き、羊羹、唐揚げ）や唐辛子入りのお風呂の提供等の幅広い活動を展開している。
- 栃木三鷹の更なるブランド化推進のため、三鷹品種の唐辛子を使用した唐辛子粉を「栃木三鷹」として地域団体商標登録を行い、「大田原市と栃木三鷹を全国に広めよう！」をモットーに、「栃木三鷹」とともに、とうがらしの郷大田原の認知度・日本一を目指している。
- 市内の小中学校の学校菜園に唐辛子栽培導入を企画し、苗を無料配布し、子供たちに畑やプランター等に植え付けをしてもらい、今では毎年9割の小中学校が参加するまで浸透している。
「七味づくり体験」では、「唐辛子の粉で目が痛い、ゴーグルが欲しい」、「家に帰ったら、早くそばにかけて食べてみたい」などの声も聞かれた。
- 東京都内でのイベントへ出展し、大田原市産唐辛子料理を提供するとともに、毎年11月に市内で開催する「とうがらしフェスタ」には、例年1万人以上の来場があり、唐辛子商品の販売や七味づくり体験を行うなど都市農村交流の促進に寄与している。



とうがらしの栽培講習会



生産量日本一宣言イベント



七味づくり体験



とうがらしフェスタ

農 林 水 産 大 臣 賞

受 賞 者 特定非営利活動法人こいねみさくぼ
(静 岡 県 浜 松 市)

【 在来種で人をつないで伝統文化と歴史を未来へつなげ ! 】

【 主なむらづくりの内容 】 (平成25年6月に法人設立)

- 水窪町の在来種である「水窪じゃがた」に着目し、その知名度向上のための水窪じゃがた祭りを毎年7月下旬に開催(地元住民の半数以上の約1,000人が地域内外から参加)し、地域コミュニティの形成、関係人口の増加、祭り以外での水窪町への来訪者の増加、農産物と地域の知名度向上に寄与している。
- 水窪じゃがたの栽培指導はみさくぼ野菜を育てる会が行い、品評会を開催し規格の統一等を行うなどにより地域全体で栽培技術が維持され、耕作放棄地の解消にも寄与するとともに、冷凍コロッケに加工販売するなど農産物の商品化による栽培意欲の向上にも貢献している。こうした伝統的生活文化の取組が評価され、水窪じゃがたは浜松市の地域遺産に認定された。
- (有)春華堂と栗の栽培を一緒に行い商品(あわ餅「みさくぼ」等)が生まれ、静岡県の一社一村しずおか運動に認定されるとともに、近隣高校(藤枝北高校)と協働した商品開発(タカキビキーマカレー等)などにより、農業や地域振興に対する若者の興味関心の向上、地域の活力向上に繋がっている。
- (有)春華堂、静岡銀行等との連携によりキッズアカデミーを開催し、雑穀収穫体験等を通じた郷土愛の醸成、食文化の継承、地元産業の興味関心の向上にも繋がっている。在来種の「ネコアシアワ」の収穫・脱穀体験では、選別作業(唐箕がけ)でアワとモミの重さを比べて「アワのほうが重い」と驚いたり、アワを触って「気持ちいい」という声があがった。



こいねみさくぼと(有)春華堂



(あわ餅みさくぼ)



(芋焼酎 みさくぼの恵)

【 企業、高校と連携し開発した特産品 】



水窪じゃがた祭り



水窪じゃがたの品評会



しずおかキッズアカデミー

関 東 農 政 局 長 賞

受 賞 者 ふかや西部野菜協議会青壮年部
(埼 玉 県 深 谷 市)

【 担い手のネットワーク活動を活かしたむらづくり 】

【 主なむらづくりの内容 】 (平成20年に青壮年部設立)

- 地域イベントへ積極的に参加し、ブロッコリー等の農産物販売を行い、販売の際には購入者とのコミュニケーションを重視し、食材の選び方やおいしい調理方法、農業に対する思いなどを伝えるなど、地区の農業をより身近に感じることができる機会を創出している。また、イベントを通じて、地域で栽培するスイートコーンの品種「味来」の認知度を確し、知名度向上を目的としたPR活動や生産、販売意欲の向上にも繋げている。
- 地元の小学生に対しスイートコーンの栽培指導、収穫体験を行うとともに、ベテラン生産者を招きスイートコーン栽培の歴史や生産のやりがい、苦労などを伝える食育活動を実施している。体験した小学生からの手紙には、「家で栽培してみたけど、難しかった!」「自分たちで育てたトウモロコシが給食に出てきて、おいしかった!」等の感想が寄せられており、故郷のことを知り、故郷を愛する心を育むきっかけとなっている。
- 農協や地域内の畜産農家と連携して、たい肥を活用した栽培に取り組んでおり、地域内で作られたたい肥の活用により生産コストを削減できるだけでなく、畜産農家が抱えるふん尿処理問題の解決など、地域内循環の仕組みは持続的な産地形成に役立っている。
- 農協、普及組織などと多様な情報交換が行えるよう「対面のネットワーク活動」と「非対面のネットワーク活動」を展開し、現場情報をスピーディに共有できる仕組み構築するなど、個人の技術向上に加え、地域全体の栽培技術の底上げにも繋がっている。



青壮年部の部員



販売イベントを通じた地域住民との交流



小学生を対象にした食育活動



対面のネットワーク活動